

(様式1)

令和 2 年 4 月 6 日

宮津市議会議長 北仲 篤 様

会 派 名 市民新生クラブ
代表者名 徳 本 良 孝

政務活動費 調査研究(視察)報告書

- 1 視察年月日 令和 元 年 8 月 1 日 (木) ～ 8 月 3 日 (土)
- 2 視察先・項目
- ① 熊本県水俣市
 - ・介護予防・日常生活支援総合事業に係る一般介護予防事業「もやい・ふれあい菜園事業」について
 - ② 熊本県山鹿市
 - ・地域コミュニケーションアプリ「やまがメイト」を活用した行政情報等の配信について
 - ③ 熊本県山鹿市「山鹿灯籠民芸館」
 - ・「千人灯籠踊り」の取組みについて
 - ③ 熊本県阿蘇市「道の駅阿蘇」
 - ・「ASO 田園空間博物館」について
- 3 参加者氏名 徳本 良孝、 北仲 篤、 河原 末彦 以上 3 名
- 4 経 費 269,584 円 (89,861円/1人あたり)
- 5 添付資料 視察研修行程表・資料 (別添のとおり)

政務活動費 調査研究(視察)報告書

8月1日(木) 熊本県水俣市 (人口:23,754人、面積:163km²)

視察内容:水俣市介護予防・日常生活支援総合事業に係る一般介護予防事業
「もやい・ふれあい菜園事業」

1 視察目的・内容

令和元年6月末の時点で、本市の人口は17,826人、高齢化率は41.37パーセントである。少子高齢化が進んでいるこの状況下で扶助費の増額を抑制するためにも市民の健康寿命をのばすことが重要な政策課題の一つとなっており、平成29年4月から始まった介護予防・日常生活支援総合事業の充実はその課題解決のために避けては通れないものである。しかし、本市の現状はサービス利用者のニーズを満たし、事業本来の目的を達成することのできるサービスメニューの策定には苦勞している状況と言える。

そこで熊本県水俣市の「もやい・ふれあい菜園事業」について視察研修を行なうこととした。特に注目する点は、全市共通メニューではなく、地域ごとにその特性等に合ったメニューを提供していることである。地域の高齢者が参加しやすく楽しめるよう、できるだけそれまでの暮らしと同じ感覚で取り組めること、また、取り組みの成果が売り上げや感謝の声などにつながることで事業を継続する力になっていると考えられることについては本市の政策策定において参考にすべきものとする。

高齢者が日常の暮らしに近い感覚で、継続して取り組むことが可能な介護予防・元気づくり活動を推進することを目的とした事業。総事業600万円で、4地区(1地区150万円)で農業・花壇・プランターづくりの活動を行っている。なお、アルコール類・備品の購入は認めておらず、報酬に関しては実費に近い形での謝礼金は認めている。地域の元気な高齢者が主体となり、地域にある自治会等の住民自治組織等と連携して、地元にある社会資源を活用した健康づくり・介護予防活動等を行っている。「もやい」とは、「いっしょに」といった意味があり、地域の菜園で収穫した野菜を利用した食事会や料理教室等、食や農を通したさまざまな活動をもに行いながら介護予防に取り組み成果をあげている。平成31年にSmart Life Project第7回健康寿命をのばそう!アワード厚生労働省老健局長自治体部門優良賞を受賞した。

【徳本 良孝】

水俣市の周辺部は本市と同様に高齢化率が高いが健康で元気な住民が多い点が共通しているので多いに参考になる取り組みである。地域の中でも活躍できる男性に焦点をあてた介護予防に取り組むべきである。また、介護予防といってもやはり、地域のつながりが重要である。共助の視点でよりいっそうの地域のつながりを強めながら活かしていく取り組みが重要と史料する。

【河原 末彦】

山間地や市街地、温泉地など住んでいる地域の特徴を活かした活動が展開されている。これは、住民主体でなければ、活動を起こす発想は生まれず、「昔取った杵柄」を発揮できる場所として、グループの活動が、生きがいづくり、健康づくりの役割を果たしていることは、介護予防に取り組む視点として参考になった。

【北仲 篤】

私の身近な高齢者の男性から「デイサービスに誘われて行ってみただけ、みんなで一緒に歌を歌ったりゲームをしたりするのは、かえって疲れるし居心地が良くない」という意見を聞く機会が多い。この事業では、「野菜を収穫し、それを売って利益を出す」「自分の作った野菜が料理教室や食事会で有効活用される」という目的ややりがい明確なため、このような男性も積極的に参加し楽しむことができる。男性参加者がこのように感じられるプログラム作成を目指すと言う点は大いに参考にすべきと考える。

岩坂水俣市議会議長による説明



政務活動費 調査研究(視察)報告書

8月2日(金) 熊本県山鹿市 (人口: 49,660人、面積: 299km²)

視察内容: 地域コミュニケーションアプリ「やまがメイト」を活用した行政情報等の配信

1 視察目的・内容

本市では、災害時に行政防災無線の屋外スピーカーによる情報発信を行っているが、気象状況等により放送内容が聞き取りにくいという苦情や個別受信装置の導入も検討すべきではという議論もある。また、豪雨により幹線道路である国道178号が通行止めになることもたびたびあり、その際の被災状況や復旧見通し等についても情報提供を必要なタイミングで確実にを行うことについて、地域住民から多くの意見や要望が寄せられている。

「やまがメイト」は、山鹿市に関わる情報を音声メッセージで配信できるアプリケーションソフトであり、スマートフォン等から必要な情報をラジオのように音声で受け取ることができる。室内にあるスマートフォンやタブレットで音声を聞くだけでよいため、気象状況に影響されることなく、また、高齢者等にも情報が伝わりやすいことから、行政防災無線の個別受信機と同じメリットがあると考えられる。

本市で検討している、防災行政無線の屋外スピーカーシステムの改善、地区有線放送網への防災行政無線の接続、防災行政無線個別受信機の導入、コミュニティFMの設立等々の各手法に比べ、初期投資額・準備期間・ランニングコスト等の負担が軽減できると考え視察研修を行なうこととした。

視察時点でのやまがメイトの登録者数は9,086件であり、登録者数を増やすために毎年4月に開催される区長会議での周知・行政区や各種団体等を対象とした出前講座での説明・広報誌やホームページでの周知などに取り組んでいる。アプリケーション「やまがメイト」は全てのスマートフォンから無料でダウンロードできる。

スマートフォンとタブレット端末では置いておくだけで音声を自動再生でき、高齢者には好評であるとのこと。パソコンと従来型の一般の携帯電話でも音声メッセージをダウンロードして確認することができる。

初年度導入費が、11,823,840円。以降のシステム改修費用が、H28年: 3,736,000円、H29年: 3,500,000円、令和元年: 3,672,000円 無償提供のアプリをベースにしたことで当初見込みを下回ることができた。ランニングコストは、令和元年度予算において、月額613,500円が計上されている。

2 考察・検証・成果等

【徳本 良孝】

本市の防災行政無線システムにおける屋外スピーカーによる現方式では、荒天時に高齢者が屋内で放送内容を聞き取れない等の課題もある。各世帯にスマートフォン等を設置し音声自動再生ができる山鹿市の手法は、これらの課題解決のために適した手法である。また、事前に登録すれば、市外に居住する家族等がメールにより放送内容をリアルタイムで確認することができる点も高齢者世帯の多い本市にとって有益な手法であると思料する。

【河原 末彦】

「山鹿メイト」は、市内の様々な団体(社協、警察、道の駅、医療センターなど10団体)の積極的な情報発信もあり、市全体の動きを「山鹿メイト」を通じて知ることができる役割を果たしていた。本市においては防災行政無線を補完する役割と情報の共有により市全体の活性化にも繋がる可能性を持っており、検討に値する施策であると考えさせられた。

【北仲 篤】

最初にシステムを構築する際に内容を本市の状況に合わせたものにする必要はあるが、防災行政無線の個別受信機の導入、地域FM局の開設に比べると初期投資額、ランニングコスト共に低額で済むことが分かった。本市の課題を解決し市民の声にこたえることのできる取り組みになると考える。前向きに導入を目指すべきである。

山鹿メイト担当職員との研修



政務活動費 調査研究(視察)報告書

8月2日(金) 熊本県山鹿市 (人口: 49,660人、面積: 299km²)

視察内容: 山鹿踊りの取り組みについて

1 視察目的・内容

本市では毎年8月16日に宮津灯籠流し花火大会が開催され、会場で打ち上げられる宮津湾に浮かぶ多くの紅白灯籠を背景に会場で打ち上げられる花火を見るために多くの来訪者がある。また、それにあわせて宮津の伝統芸能である宮津踊りを市民参加で楽しみ競う「総おどり大会」が開催されている。

今回は、この「総おどり大会」をより活性化し、これに参加し、鑑賞することを目的に市外から多くの来訪者に来ていただくための取り組みについての研究を目的に山鹿灯籠まつりの「千人灯籠踊り」について視察研修を行なった。

毎年8月15日・16日に山鹿灯籠まつりが開催されている。その中心になっているのが、和紙と糊だけで作られた伝統工芸品「山鹿灯籠」を頭に乘せた1,000人の浴衣姿の女性が厳かに山鹿踊りをおどるものである。その時に唄われるのが「よへほ節」である。これはもともと地元で伝わっていた唄を野口雨情が昭和8年に改作したものである。

今回は、踊りの舞台となる、古い街並みと建造物が残った地域にある「山鹿灯籠民芸館」で視察研修を行なった。山鹿灯籠は紙と糊だけで作られ、軽くするために中が空洞になっている。千人踊りで使われる灯籠は市内在住の9人の「灯籠師」により作られたものである。民芸館ではペーパークラフトで灯籠を作ることができ、多くの観光客が体験している。また、当日の有料鑑賞チケットは楽天チケット等のネット販売で取り扱われている。踊りの魅力をアピールすることは当然だが、伝統工芸品として魅力のある「山鹿灯籠」をアピールすることで来訪者とりピーターを増やすことに結びついている。

2 考察・検証・成果等

【徳本 良孝】

山鹿市では「山鹿踊り保存会」が多くのメンバーを有し、踊り手の募集と参加希望者への講習、保存会のメンバーによる踊りの公演など積極的な取り組みをされていることが興味深い。特に公演は海外からも声がかかり、定期公演として定着しているものもあるとのことである。山鹿市は特にインバウンド政策として取り組み始めた訳ではないが、山鹿踊りを見るために来訪する外国人観光客が増加しているとのことであった。

【河原 末彦】

宮津の伝統芸能である「宮津おどり」は、今、後継者をどう作っていくのが課題であり、地方講座やおどりの普及に取り組まれている。「山鹿灯籠踊り」の現状を工芸館で尋ねたところ、踊りをリードしていたのは、市役所の女性職員、現在はリーダーが高齢化し「宮津おどり」と同じような課題を抱えている。しかし、地道に山鹿おどりの講習会を開催するなどの活動が展開されており、宮津でも「長期的視点に立ったリーダー育成」が必要と感じた。

【北仲 篤】

伝統工芸館で印象に残ったのは、踊りの舞台となる山鹿の街並みの模型があり、民芸館のスタッフであり街並みガイドでもある方が、それを使って丁寧に楽しく説明して下さったことである。宮津踊りも、踊りや唄等の魅力に加えて、宮津湾に浮かぶ灯籠や宮津の街並みの魅力を体感・体験してもらえる取り組みがあっても良いのではないかと感じた。宮津歴史の館を利用するのもひとつの手法ではないか。

山鹿灯籠民芸館前にて



山鹿灯籠制作体験コーナー



政務活動費 調査研究(視察)報告書

8月3日(土) 熊本県阿蘇市 (人口:25,266人、面積:376km²)

視察内容:道の駅阿蘇「ASO 田園空間博物館」の取り組みについて

1 視察目的・内容

阿蘇市の「ASO 田園空間博物館」は、自分たちの住む地域の価値を再発見と発掘をすることでその魅力をより高めると同時に内外に情報発信と共有することを目的とした事業。特に注目すべきは、阿蘇に暮らす地域住民が「ぜひとも訪れてほしい」魅力的な場所を選んだ「ASO 田園空間博物館サテライト」と地域住民が自ら企画しガイドを務めるツアーである。阿蘇を巡る自転車ツアー、草原の魅力を体感できるツアーなどの人気が高くインバウンド客も含め内外のリピーターは着実に増加している。また「ASO 田園空間博物館サテライト」は紙のガイドマップだけではなく道の駅のホームページからネット上でも見ることができ各ポイントをクリックすることにより詳細な情報が表示される。道の駅を運営するNPOスタッフによると、海外から阿蘇を訪れようと考えている人達も含んだ個人の観光客からのアクセスや問い合わせが増えているとのことであった。

当初は阿蘇の魅力発信と地元産品の販売を目的として開設され、地元住民を中心としたNPOが施設運営を行っていたが、道の駅に指定されたことを機会に来訪者と売り上げが増加し収益が大きく増加したとのことであった。

本市においても道の駅の運営に地元関係者等の参画の実績はあるが、「道の駅阿蘇」においては地元産品や食品提供だけではなく、魅力発信やツアーの企画・実施のソフト事業にも主体的に関わり成果をあげている点は大いに研究し参考にすべきと考える。

2 考察・検証・成果等

【徳本 良孝】

「道の駅阿蘇」は従来の道の駅に共通する、休憩機能や情報発信機能、地元産品の販売所という特性に加え、「地域との連携機能」をあわせ持つ施設として平成20年6月に開設されたものである。特に情報発信とガイドについては目を引くものがあり、英語の堪能なスタッフと英語版観光パンフレットの充実、来訪者が自由に利用できる複数台のパソコンによる観光案内、地元ガイドさんによるツアーの実施などは大いに参考にすべき魅力的な取り組みであると感じた。

【河原 未彦】

地域の魅力を感じ取ってもらうツアーの企画は人気を集めており、そこに住んでいて日頃から良さを感じている地域住民の主体的な参加が欠かせない。道の駅「海の京都宮津」も地域の魅力を掘り起こし、みんなでつくり支える道の駅として、発展していくことが必要であると考えさせられた。

【北仲 篤】

本市においても農林水産業および観光業に関わる地元関係者が参画した道の駅の運営がなされているが、阿蘇。市では地域住民が「阿蘇の魅力の情報発信」とその魅力を楽し

んでもらうための活動に積極的かつ主体的に参加していることは見習うべきことと感じた。それが、道の駅の来訪者と売り上げの増加に着実に結びついていることは参考にすべきである。

道の駅阿蘇

